

令和元年度 大阪府立桜塚高等学校 第3回 学校運営協議会

令和2年1月30日(木) 16:00~17:30

大阪府立桜塚高等学校 会議室

校長

准校長

委員 武庫川女子大学副学長、

豊中市立第三中学校校長、岡町・桜塚商業団体連合会代表、豊中市社会福祉協議会福祉推進室次長、豊中三中校区地域教育協議会会長、尚和会(同窓会)会長、定時制課程保護者代表、大阪府立桜塚高等学校PTA会長、大阪府立桜塚高等学校定時制振興会会長、

事務局 教頭、事務部長、首席、進路指導主任、教務主任、書記

16:00~16:10 (司会:全日制教頭)

1 校長、准校長、会長 挨拶

校長:桜塚高校6期卒業生で、11月に文化功労者に選ばれた宇多喜代子先生を本校に招き、1月9日に総合的探究の授業の一環として俳句の講演授業を開催した。大阪日日新聞社や毎日新聞社にも記事が掲載され、後日生徒に記事を紹介した。

准校長:全日制の協力があり、定時制生徒や職員も緊急連絡網に参加することができた。また、12月に交通安全教室を実演し、交通安全に関する指導を行った。職員と連携しながら、支援の必要な様々な事情を抱えた生徒への対応にあたっている。

会長:いろいろなことを幅広く学ぶことが将来に生きてくる。それは若いときには感じ取れないかもしれない。何十年もして生徒たちが後悔しないように委員会の方の社会的な経験を活かして、様々な提案やご意見を頂戴したい。

16:10~17:30 (司会:会長)

2 報告

(1) 令和元年度学校評価について(全日制)

今年度の重点目標に対する自己評価(校長)

1. (1) グーグルクラスルームやクロムブック、ノートパソコンなどのICTを活用した授業を展開した結果、授業アンケート~教材活用「先生は用具の他、ICT機器や役に立つ教材などをうまく使っている」の項目で自己目標70%に対して80%を達成した。
1. (2) 大学教授による出張授業を6回実施し、生徒事後アンケートで肯定的な評価が95%~99%を占めた。
1. (7) 今年度は昨年度比較して図書館利用者が914名から2383名に増加した。
2. (7) 遅刻者数が12月の時点で、昨年度比27.2%減少した。

2. (4) ダンス部が全国大会に出場した。
3. (2) 豊中市ボランティアバス事業について、昨年度は2名が参加していたが、今年度は10名が参加し、被災地の方たちと交流し理解を深めた。

※豊中市ボランティアバス事業は今年度より社会福祉協議会ボランティアバス事業となった。

3. (3) 学校説明会参加者数は1月現在の参加者数であり、昨年度並みの参加者が見込まれている。

令和元年度前期・後期授業アンケート学校評価（校長）

アンケートの形式は1～4の選択式で、単純平均は2.5となる。「先生は教科書の他、ICT機器やその他の教具・教材をうまく使っている。」の項目において、7月では平均2.29であったが、12月では3.03となり評価の向上傾向がみられた。

令和元年度 学校教育自己診断（生徒）

6. 「授業では自分の考えをまとめたり、発表する機会がある。」約2%増
7. 「教え方に工夫している先生が多い。」約5%増
15. 「進路についての情報を知らせてくれる。」約4%増
16. 「奨学金制度についての情報を知らせてくれる。」約8%増
24. 「他の先生が授業を見学に来ることがある。」約8%増
31. 「クロムブックやスマートフォンを授業・ホームルームで活用する機会がある」という項目が今年度より追加されている。

令和元年度 学校教育自己診断（教職員）

1. 「学校の教育活動について、教職員で日常的に話し合っている。」5%増し、90%台に達した。
8. 「アクティブラーニング型の学習指導を取り入れている。」10%以上増
10. 「生徒の問題行動が起きた時、組織的に対応できる体制が整っている。」8%増
14. 「生徒一人ひとりが興味・関心、適正に応じて進路選択ができるよう、きめ細かい指導を行っている」12%増
22. 「各分掌や各学年間の連携が円滑に行われ、有機的に機能している。」11%増

【ご意見・ご質問】

- Q. 図書館利用者数が飛躍的に増加しているが、何か具体的な手立てはどういったことをしたのか。（尚和会会長）
 - A. 今年度より昼休み時間や放課後も図書館が開館されるようになったため、開館時間が長くなったことが理由だと考えられる。（全日制情報部長）
- Q. 前期・後期授業アンケート（全日制）について、座学質問1.「授業内容を理解するために予習復習をし、宿題等の課題があれば必ず提出している。」と実技質問1.「授業中は集中して先生の指示やアドバイスを聞いている。」という予習復習等に関する質問と授業中の取り組みに関する質問の評価結果の平均データを混合して資料に載せているが、内容が違うのでデータの集計は分けた方がよいのではないか。（会長）
 - A. 来年度以降は座学質問と実技質問の表現をより合ったものに変更するか、分けてデータを

集計したい。(校長)

- Q. 集計結果は平均データしか出していないが、より良く分析するためには分布についても調べてみてはどうか。(会長)
- A. 各先生方には科目単位での分布がどうなっているか、教科にも科目単位で分布がどうなっているかも開示している。(校長)
- Q. 学校教育自己診断(生徒)(全日制)について、1.「学校へ行くのが楽しい。」、17.「学校行事は楽しく行えるよう工夫されている。」27.「学校での生活に満足している。」などの項目で肯定的評価が減ってきているが、このアンケートの振り返りはしているのか。(PTA会長)
- A. 1月中旬以降にアンケート結果がわかったので、現時点では下がった項目の振り返りはしておらず、この原因は何か調査していきたい。(校長)
- Q. 学校教育自己診断(教員)(全日制)について、21.「中期的(3か年)な目標を踏まえ課題を明確にした『学校経営計画』を策定し、PDCA サイクルによる学校経営を推進している。」の肯定的評価が過去3年度とも低くなっている。全職員の6割程度しか肯定的評価をしていないというのは、学校経営計画の内容が教職員間で共有できていないのではないのか。(岡町・桜塚商業団体連合会)
- A. 学校経営計画は学校長単独で作成してもよいが、職員間でも共有したいと考えて各分掌を通して職員の意見を聞き作成してきたつもりである。学校長や各分掌がより意識して、取り組んでもらう中で、次のステップに進むという流れができれば、この項目の評価に関しても向上するだろうという気持ちである。(校長)
- 教職員の評価が80%未満の項目については、管理職だけでなく校内で議論を活発にして教職員からの意見や方策を考えていく資料としていければよいと思う。(会長)
- Q. 学校教育自己診断(生徒)(全日制)について、生徒質問16.「奨学金制度についての情報を知らせてくれる。」、保護者質問11.「桜塚高校は、進路に関する情報提供に努力している。」の肯定的評価に差があるが、情報提供の在り方で工夫されていることはあるか。(豊中市社会福祉協議会福祉推進室次長)
- A. 奨学金制度の詳細や変更があった場合には生徒には直接連絡している。保護者についてもファイナンシャルプランナーによる講演会を開き、その情報も保護者メールを利用して情報発信した。保護者が必要な授業料や奨学金に関してのことは事前に説明したり、メールで発信したりしている。それ以外のことでは生徒が保護者にプリントを渡さない、直接保護者に説明会を開いて欲しいという要望もあるが、その都度、対応できることには限りがある。生徒が保護者に連絡するよう促し、保護者メールでも連絡するように工夫している。また給付型の奨学金については、対象生徒に連絡している。(全日制進路部長)
- Q. 学校教育自己診断(生徒)(全日制)について、16.「桜塚高校の施設・設備は、学習環境の面で満足できる。」の肯定的評価が低い原因はどういったことが考えられるのか。(PTA会長)
- A. 校内Wi-Fiの導入等をしているが、保護者が知る機会が少ない。今後は保護者に向けてもPRしていきたい。(校長)

(2) 令和元年度学校評価について（定時制）

今年度の重点目標に対する自己評価（準校長）

1. (イ) 年間2回の公開授業を実施した。授業の評価がわかりやすいように「いいねカード」を導入した。11月に「いいねカード」を活用し、グループ形式の振り返りを行った。

令和元年度 前期・後期 授業アンケート学年別 結果（準校長）

授業アンケートは前期7月と後期12月に実施した。ほぼすべて3点後半台の評価を得ている。前期と比較して、後期は若干数値が下がっている項目も多いが、母数が少ないので、誤差の範囲ではないかと考えている。

今年度の重点目標に対する自己評価（準校長）

2. (1) 欠席連絡のない生徒に放課後等で家庭に連絡し、生徒や保護者と話し合っている。
2. (2) 社団法人「キャリアブリッジ」や臨床心理士、大学生と連携し、悩み事や進路の相談機会を設けている。また資格試験については7名以上の合格が目標だったが、今年度は受験者が1名しかおらず、残念である。
2. (3) 啓発活動不足もあり、ボランティア活動への今年度参加者は1名であった。部活動加入率は60%以上であり、放課後活発に活動している。ワンダーフォーゲル部の活動では生徒の家族が参加するなど、定時制の特色ではないかと考えている。
2. (4) 1年以上出席していない生徒についても事務室とも追跡・情報交換し、在籍生徒の把握に努めている。
2. (5) 豊中市社会福祉協議会の協力を得て、介助員の人材確保や大阪大学との連携により学習支援員の充実を図った。
3. (1) 学校教育自己診断の「学校運営に積極的に参加している教職員が多い」という項目について90%を超えている。
3. (2) 定時制については他校等と時間がずれているため地域連携はなかなか難しい。豊中第四中学夜間学級の夜間展示に参加するなど、関係を深めていければと考えている。

【ご意見・ご質問】

- Q. 夜間中学校や他の中学校との連携を深めていって欲しい。全日制の学校には通えないが、定時制の学校なら通えるという生徒もいる。定時制がどういった学校なのかということをご各中学校に伝えていって欲しい。いろいろな事情の生徒がおり、地域に仲間がいない生徒にも、定時制の学校を生徒同士の基礎的な人間作りの場として欲しい。(定時制振興会会長)
- A. 卒業生が部活動に参加することも多い。生徒同士や教員とも良好な関係があるから部活動に参加する卒業生がいるのだと考えている。また、今年度は北摂地域のすべての中学校に案内を送って2回学校説明会を開いた。しかし、夜間中学校から連絡があり、日程的に参加できないため、別日程で調整して欲しいと要望があった。その要望に応じて、別日程で学校説明会を開いた。参加した夜間中学校の生徒や中学校教員にも好評であった。
- また、昨年度夜間中学校や国際交流センターの紹介で本校を受験したネパール国籍の生徒が2名在籍しているが、他の生徒とも仲良く学校生活を送っている。またそのうちの1名については豊中市の広報でも紹介予定である。(定時制教頭)

3 協議

(1) 令和2年度学校経営計画について（全日制）

今年度の重点目標（校長）

2 中期的目標に関して、次の下線部について変更や追加があった。

1. (3) 授業も含め、学習動画の取り組みを導入し、取り組みを充実させる。
2. 人間力をつけること、規律、安全安心について
5. (2) さらなる教育力発展のために、新教育課程開始時には土曜授業を廃止する。
教育課程の編成時に朝学の枠組みの改定も検討する。

【ご意見・ご質問】

Q. 学習動画の導入とあるが、具体的にどのようなものでどのような活用方法か。（会長）

A. 小学校6年生から大学受験まで対応した、5000程度の学習動画があるスタディサプリと、ベネッセの類似した2つのサービスで検討している。今年度はスタディサプリを希望者で実施していた。生徒への負担が大きいためスタディサポートの廃止の意見も出たが、学習保障という観点から、スタディサプリを導入することで生徒個々に合わせて中学校の内容の復習や高度な内容も学習できる。さらに学年全体で導入すると費用も抑えられるため、リクルートのスタディサプリが第一候補である。（進路部長）

(2) 令和2年度学校経営計画について（定時制）

今年度の重点目標（準校長）

2 中期的目標に関して、次の下線部について変更や追加があった。

2. (3) 長期にわたり登校実績のない生徒の状況を把握し、適正な在籍管理を行う。
2. (4) さまざまな背景をもつ生徒に対応できるよう、SSW等との連携を強化するとともに、教員が最新の情報やメソッドを積極的に学び、研鑽に励むことができる環境を整える。
3. (2) 本校定時制振興会の協力を仰ぐと同時に、全定併置校の特色を活かし、互いの協力関係を密にして、さらに有効有意な関係を構築する。
4. (4) 18歳以上の生徒に対して選挙権の行使を促し、社会活動に積極的に参加する意識を醸成する。

【ご意見・ご質問】

前回の学校運営協議会での意見を組み入れて頂いている。一つひとつが重たい課題であるので、一歩ずつ対応していければと考える。まずは生徒一人ひとりを見てもらうことが重要である。（会長）

4 その他

全日制完全下校時間の変更について（全日制）

施設受け渡しに関する申し合わせ事項（校長）

来年度以降全日制において7限目授業が導入されるが、全日制の部活動の時間を確保するため、完全下校時間を現行から10分遅らせて、17時45分としたい。下校時刻が遅くなることで、定時制の登校時間と重なりが大きくなるが、何か問題があれば工夫して対応していきたい。